

[chiba\_42]

活動タイトル	第19回環境科学展での温度差発電体験
実施日	2025年11月1日（土）
場所	札幌市青少年科学館 2F 特別展示室（札幌市）
対象数	997名

内容

所属するNPOで当日は、NPOでの子ども向けの体験プログラム。ペルチェ素子を使い手のひらと氷を使った温度差発電体験。例年は9月から10月開催ですが、今年は11月の開催となりました。

折しも朝から大雨。天気予報などでも「不要不急の外出を避けるように」という注意喚起がされ、その影響もあってか。午前中の会場は閑散としていました。

でも、午後になると「環境科学」というテーマと1日しかないイベントということで、親子が来場。

たいていの親子は半信半疑で体験に来ます。が、ペルチェ素子という半導体を“手のひらと氷”ではさむことでモーターが回ることでびっくりします。

子どもは“驚きと感心”。親は“驚き”とともに“なぜ？”と言います。

ペルチェ素子は直流電気を流すと片方熱くなり、片方が冷えると言うもので現在はネックファンやハンディファンなどの冷却プレートとして使われているもの。「電気というものは逆のことすると微弱な電気」が生まれることを説明します。

が、親は温度差発電するということをすぐ理解はしますが、“発電のメカニズム”に関しては、理解できない顔をして帰ります。

この体験イベントに来るのは、子どもの学びに一生懸命な親御さんです。いつも思うことですが、発電体験を通して、親子の印象に残り、帰宅後「あの体験面白かったね」から会話のキッカケになり、「面白い」→「どんなところで役に立つ」というふうに広がっていってほしいと願うばかりです。

実施写真等

